

Web調査

『計算社会科学入門』 第2章

三浦麻子(大阪大学大学院人間科学研究科)

1

本章の概要

- 想定読者: 計算社会科学のプロフェッショナルだが「調査素人」な方
- 調査という研究手法のメリット／デメリット
- 紙ベース調査と比較したWeb調査のメリット／デメリット
- Web調査を活用した発展的調査手法
- 調査で得られるデータに関する留意点
- 研究事例紹介(本日は省略)
- 参考文献紹介(本日は省略)

事例紹介や具体的な「お悩み相談」は...
数理社会学会ワンステップアップセミナー
3/7開催・2/28参加申込締切

調査

- 広義
 - 物事の事情や詳細を明らかにするために調べること
- (本章での)狭義
 - 人間の心や行動を理解したり, それを手がかりとして社会の様相を理解するために, 対象者に言葉を用いて様々な質問を投げかけ, それに対する対象者の主観的な評価である回答(データ)を得る研究法
 - 実験で用いられる場合もある(cf: 第3章「デジタル実験」)

調査のメリット

- 実験(データを収集する環境が研究目的に沿ったものになるよう研究者が人為的に作り出す)では実施できないようなテーマや測定が難しい対象について、「言葉を用いて問いかける」ことができる
 - 例:倫理的な問題があって実験では研究実施が不可能なテーマについて、それぞれの状況を想像させるような教示文を与えることで、そのような場面でどのように行動する「と思う」かを尋ねることができる
- 一律の調査票を一度に多数の対象者に配布し、協力を求められることから、相互に比較可能な数量的データを得ることが容易
 - 研究者と協力者の双方のコストを削減できる

調査のデメリット

- 因果関係の同定が困難
 - 一般に, 同じ調査票で同時にA とB の両方を尋ねた場合にわかるのは, あくまで両者の相関関係であって, 因果関係を特定することはできない
 - これをある程度解決するための手法がパネル調査(後述)
- 協力者自身に一定の言語理解能力が必要
- 社会的望ましさバイアスの存在
 - 社会的規範に抵触するような心理状態や言動を測定しようとする, 自分を良く見せようという意識が働いてしまったり, 回答に本来の自分をそのまま表わさなかったりといった様々な歪みが生じる可能性がある

調査研究の科学的信頼性・妥当性

- 主観報告のみに基づく研究の科学的信頼性・妥当性については議論のあるところ
- おそらく最善の解決策は多面的なアプローチでデータを収集すること
- 計算社会科学が主たる対象とする人々の自発的な情報行動やコミュニケーションなどの詳細データの解析と、調査によって収集したデータを組み合わせた研究は、その解決に資する可能性がある

Web調査のメリット

- 調査対象範囲の拡張
 - 媒体をオンラインに限ることによるサンプルの特殊性を問題にする必要が既に少なく, 調査実施にかかるコストの低減が期待できる
 - (Student Psychologyと揶揄される心理学のように, ごく限られた対象から得られるデータにもとづく知見を一般化しがちだった研究領域では) サンプルングバイアスの問題をある程度解決できる
- vs 紙筆版調査
 - (計算社会科学の方には響かない「当然のこと」かもしれないが) データが電子化された形で回収でき, 入力の手間を省けるので, 分析準備が楽になる
 - 質問内容をダイナミックに変化させる仕掛けを施すのが容易

Web調査のデメリット

- 協力者が「手軽に参加できる」ことは、言い換えれば、研究者が「参加環境を制約できない」ということ
- 回答に際する態度を調査者がコントロールすることが不可能なので、協力者が誠実に回答に取り組んでいるかどうか敏感になる(外的指標で積極的に検出する)必要がある
 - 別の言い方をすれば、Web調査はその検出が比較的容易でもある

調査における倫理

- 倫理審査
 - たとえ軽微でも協力者に影響を与える行為をする以上, 基本的には倫理審査を受けて承認を得る必要がある(少なくとも心理学では「受けない」ことの方に理由が必要な手続き)
- インフォームド・コンセント
 - 対象者に事前に研究目的等について十分な説明を行った上で協力への同意を得る必要がある
 - 研究の性格上それが不可能な場合は, デセプション(虚偽の説明)を行うこともあるが, その場合はデブリーフィングによって事後に必ずその旨と必要性を説明して再同意を得る必要がある
- 研究計画の事前登録
 - 研究者が研究に対峙する際に守るべきモラル
 - 「正」の研究手続きをあらかじめ定めておき, これを研究着手前に第三者に向けて公開することで, 着手後の不正(にきわめて近い行為...QRPs)を防ぐ
 - 事前仮説を明らかにすることで, 検証と探索を明確に区別する(後者を抑止するものではない)

倫理審査

- 基本は「参加者の保護」
- このチェックリストにあるような事項に十分配慮すべきだし、逆に言えば、そうした配慮が必要ないような関係性の相手からデータを収集すべきではない

<研究実施主体>

- 研究の実施にあたって、あなたはその研究に必要な専門的知識と技能をもち、十分な経験を有していますか？あるいは、そうした知識と技能、経験をもつ専門家の指導と監督のもとで研究を行いますか？（はい・いいえ）
- 研究の目的、方法、計画に、差別や悪意など社会的に不適切な動機や通念が含まれていないことを確認していますか？（はい・いいえ）
- 本研究をあなたといっしょに行う、または業務の重要な部分を委託する、共同研究者、研究機関、団体、事業者がありますか？（はい・いいえ・未定）
- 上記の研究者、団体、機関、事業者等について計画書に記載されていますか？（はい・いいえ・非該当）
- 上記の研究者、団体、機関、事業者等について、それらとあなたとの関係や役割について文書によって取り決めを行っていますか？（はい・いいえ・非該当）
- 上記の研究者、団体、機関、事業者等について、共同研究の場合には当該機関における倫理審査の有無、事業者への委託の場合には事業者の倫理規範について十分な確認を行っていますか？（はい・いいえ・非該当）

<安全性>

- 研究対象者のプライバシーや機微情報（政治的信念、宗教的信仰、性的志向性等）に著しく立ち入る情報を扱っていますか？（はい・いいえ・わからない）

<インフォームド・コンセント>

- 研究対象者が、学校、病院、福祉施設などの生徒、患者、入居者など、機関や団体の管理下にある場合、当該機関の倫理委員会の承認を得る準備がありますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究対象者が学生である場合、研究への不参加や参加が学生の教育にとって何らかの不利益を与えないように配慮されていますか？（はい・いいえ・非該当）

<個人情報の保護>

- 個人情報の取り扱いや成果公表時の配慮について質問紙に記載されていますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究対象者が問い合わせできるように、研究代表者あるいは共同研究者の氏名、所属組織、連絡先等を質問紙に記載していますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究で得られた個人情報およびデータの漏洩等を防ぐために、厳重に保管し管理する方法（保存媒体、保存場所等）について質問紙に明記していますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究で得られた個人情報は、研究対象者のプライバシーを守ることを優先し、研究対象者の所属する組織や関係者に漏れることがないよう、十分な配慮がなされていますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究成果が公表されることで研究対象者に不利益が生じないように十分に検討していますか？また、研究成果を公表する場合、研究対象者や関係者が特定できる情報は匿名化するなどの工夫を行いますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究で得られたデータは、研究の目的だけに使用しますか？（はい・いいえ・非該当）

<虚偽の説明・事後の説明>

- 研究計画書上、あらかじめ研究の真の目的を説明することができない場合、虚偽の説明を行いますか？（はい・いいえ・非該当）
- 虚偽の説明を行う研究を実施する場合、遅くとも研究終了時点で研究対象者に虚偽の説明があったことを伝え、真の目的を説明しますか？（はい・いいえ・非該当）
- 研究代表者あるいは共同研究者は、研究終了後、研究対象者からの質問や要望に対して、誠実に対応する準備がありますか？（はい・いいえ・非該当）

<利益相反>

- 研究対象者は、現在研究者自身と利害関係や親密な関係にある者、あるいは過去にそうであった者ですか？（はい・いいえ・わからない）
- 研究結果に対して経済的利害関係をもつ企業、個人、団体などから資金提供、備品供与、設備供与など研究への援助や便宜を受けていますか？（はい・いいえ・わからない）
- 上記に該当する場合、経済的利害関係にもとづく研究結果およびその公表方法に対するバイアスを防止する工夫がなされていますか？（はい・いいえ・非該当）
- 上記以外に事前に予測される利益相反（研究結果に影響を及ぼす可能性のある経済的利害関係）はありますか？（はい・いいえ・非該当）

<研究参加者への報酬>

- 研究対象者が研究に参加する対価として、謝金または謝礼を渡しますか？（はい・いいえ・非該当）
- 上記に該当する場合、その対価は社会通念上妥当なものであることを確認していますか？（はい・いいえ・非該当）

インフォームドコンセント

さまざまな感情にかんする心理学調査

私たちは、人間がさまざまな物事にどのような感情を持つのかに関心を持ち、心理学調査を行っています。

- ・質問の中には、汚いものや、嫌な感じを受けるもの、ことの記述が含まれています。そのため、調査内容でご気分を害される恐れがあります。
- ・あなたのパーソナリティ、性別、年齢、学歴、ご家族の構成についてもお伺いします。
- ・回答にかかる時間は約10分です。
- ・回答は18才以上の方に限定します。
- ・回答を途中で自由にやめていただくことができます。ただし、最後まで回答した方のみ、謝礼をお支払いします。

参加に同意する

参加に同意しない

■日常生活に関する調査のお願い■

このたびは、お忙しい中を調査にご協力いただき、ありがとうございます。

本調査は、日常生活に関するものです。この後のページでいくつかの簡単な質問にお答えいただけます。以下の内容をご確認いただき、調査へのご協力をお願いいたします。

◆プライバシーの保護に関して

- ・調査へのご回答は、学術的な研究目的のみで使用いたします。
- ・調査へのご回答は、大学の研究室で厳重に管理いたします。
- ・調査へのご回答を、研究代表者と共同研究者以外が閲覧することはありません。
- ・調査へのご回答によって、あなたが何らかの不利益を受けることはありません。

◆調査ご回答に関して

- ・本調査は無記名です。誰が何を答えたかは特定しません。お考えをありのままにご回答ください。

調査に関するご質問・お問い合わせは、下記の連絡先までお願いいたします。

研究代表者
関西学院大学文学部 教授 三浦 麻子
E-mail address: asarin[at]kwansai.ac.jp
共同研究者
香港城市大学 准教授 小林 哲郎

※[at]は@に変えてください。

本研究の趣旨を理解し、参加に同意いただける場合は「同意する」にチェックをつけ、「>>」をクリックして先に進んでください。

同意する

同意しない

事前登録

- aspredicted.orgなど
既存サービスを使うと容易

As Predicted: "Replication study: Immanent justice reasoning on COVID-19 pandemic" (#45661)

Created: 08/03/2020 09:29 PM (PT)

Made Public: 08/03/2020 11:42 PM (PT)

Download .pdf

<https://aspredicted.org/3bf3a.pdf>

Author(s)

Asako Miura (Osaka University) - asarin@hus.osaka-u.ac.jp

Kai Hiraishi (Keio University) - kaihiraishi@keio.jp

Daisuke Nakanishi (Hiroshima Shudo University) - nakanisi@shudo-u.ac.jp

1) Have any data been collected for this study already?

No, no data have been collected for this study yet.

2) What's the main question being asked or hypothesis being tested in this study?

This is a spin-off study of the "Disgust sensitivity and COVID-19" (hereinafter referred to as the "2020spring study", preregistration: <https://osf.io/9cbhr>). The 2020spring study was conducted from March to April 2020 in Japan, the United States, the United Kingdom, Italy and China. The aim of this study is to test whether the following interesting findings found in the 2020spring study will be replicated in August 2020.

In the 2020spring study, we asked about immanent justice reasoning for new coronavirus infection with the following two items. The average values for the five countries are shown below.

If anyone had been infected with the new coronavirus, I think it was their fault. Japan 2.35, US 1.66, UK 1.55, Italy 1.98, China 1.95

I think anyone who gets infected with the new coronavirus got what they deserved. Japan 2.21, US 1.34, UK 1.27, Italy 1.36, China 1.59

(1: Strongly Disagree - 6: Strongly Agree)

The average was not high for any country. But, compared to other countries, Japan's immanent justice reasoning for the new coronavirus infection was remarkably high. We will collect data again with the same items to see if this tendency is only specific to this sample or if it can be considered a Japanese feature.

Also, it has been pointed out that in Japan, citizens often privately sanction those who do not take the necessary action to prevent infection. In the 2020spring study, we asked the following two related questions. The average values for the five countries are shown below.

In emergencies, every citizen should watch over to ensure that government policies are respected. Japan 3.35, US 4.90, UK 5.59, Italy 5.05, China 5.60

In emergencies, every citizen can autonomously take action to ensure that government policies are respected. Japan 3.01, US 4.73, UK 5.36, Italy 2.69, China 6.03

(1: Strongly Disagree - 7: Strongly Agree)

The results do not suggest that private sanctions are more tolerated in Japan than in other countries, but rather that they are less tolerated. We will confirm this tendency by re-collecting the data with the same items to see if they are robust.

3) Describe the key dependent variable(s) specifying how they will be measured.

Important items for replication are:

1) Immanent justice reasoning for novel coronavirus infection (1: Strongly Disagree - 6: Strongly Agree)

If anyone had been infected with the new coronavirus, I think it was their fault.

I think anyone who gets infected with the new coronavirus got what they deserved.

2) Private sanction by citizens in emergencies (1: Strongly Disagree - 7: Strongly Agree)

In emergencies, every citizen should watch over to ensure that government policies are respected.

In emergencies, every citizen can autonomously take action to ensure that government policies are respected.

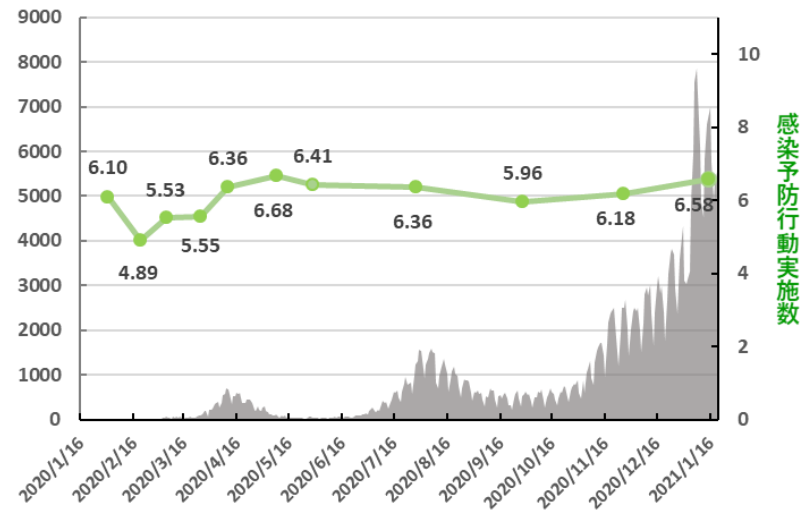
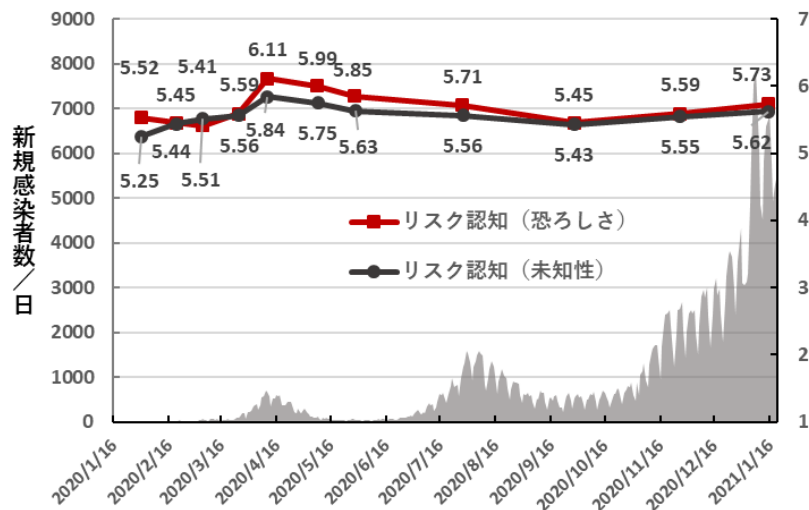
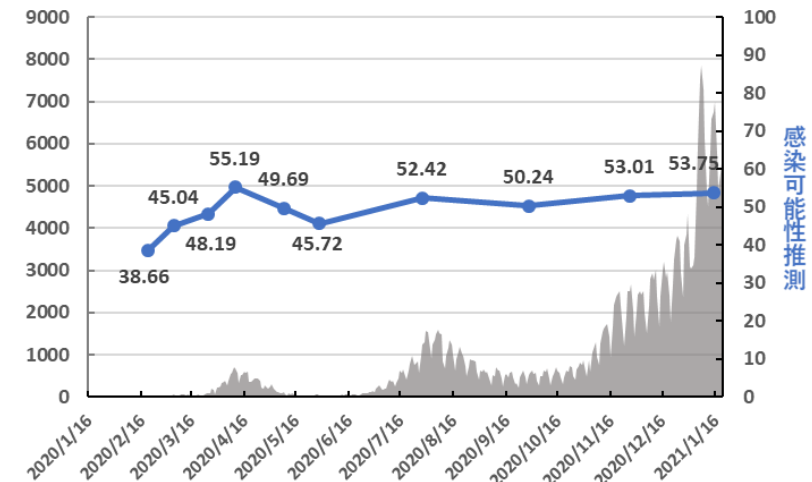
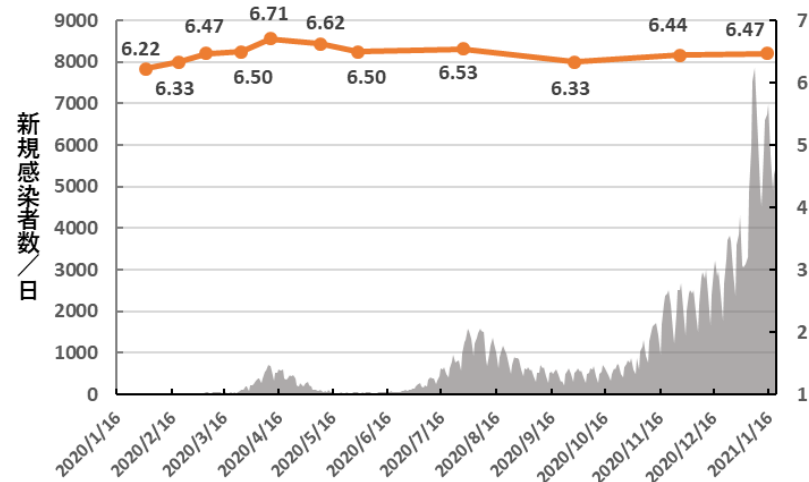
Other related items are:

発展的な調査手法

- パネル調査
 - 同じ人々に繰り返し同じ調査への協力を求めて、時間経過に伴う変化を検討する縦断調査
- 経験サンプリング
 - 比較的短期間にごく短い間隔で(例えば、数日間にわたり1 日数回など)同じ質問項目への回答を求める調査
- 国際比較調査
 - 一時点において収集したデータを、対象者のグループごとに比較する横断調査
- いずれもWeb調査ベースだと実施が(従前よりもはるかに)容易

パネル調査

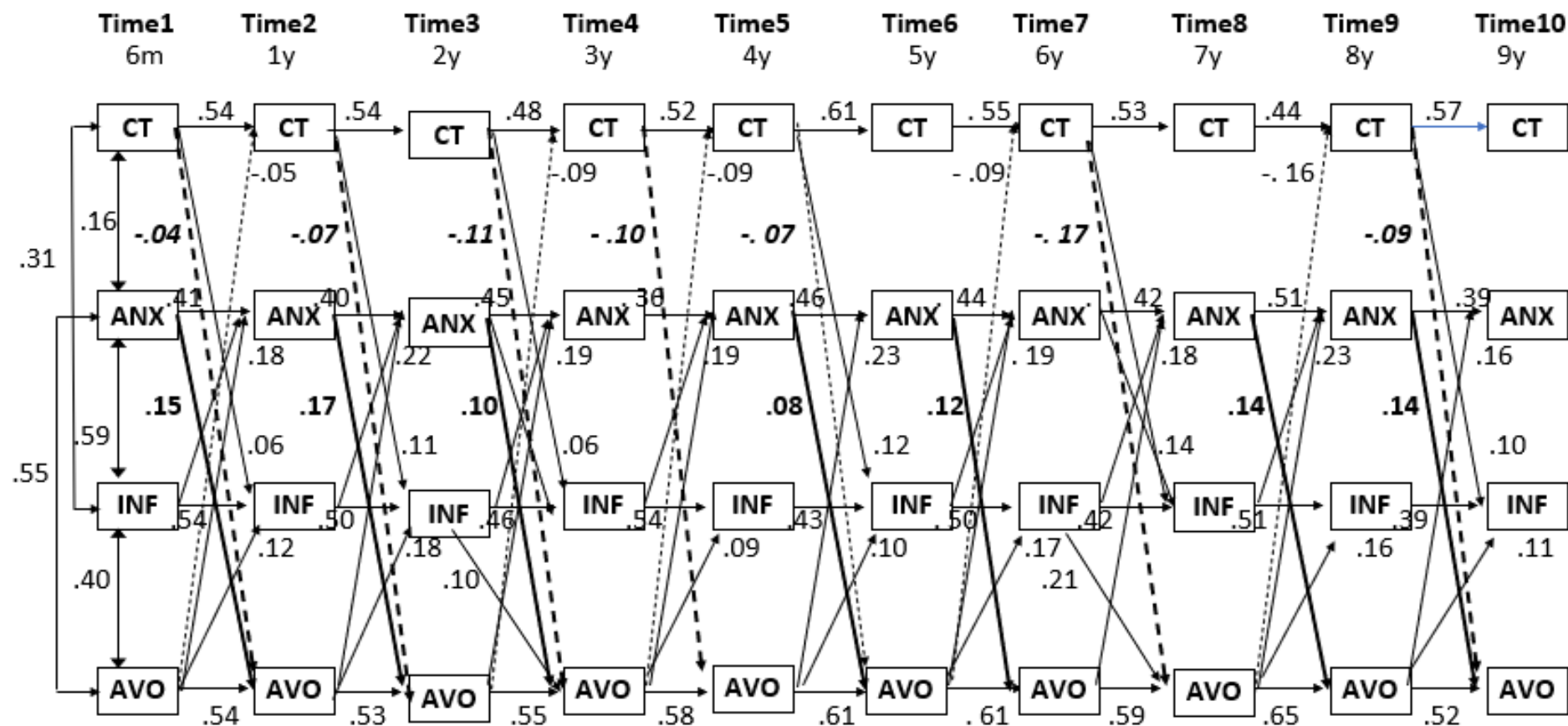
2020年1月に一般市民1200名でスタートした
11波にわたる調査(Yamagata, Teraguchi, & Miura, 2020)



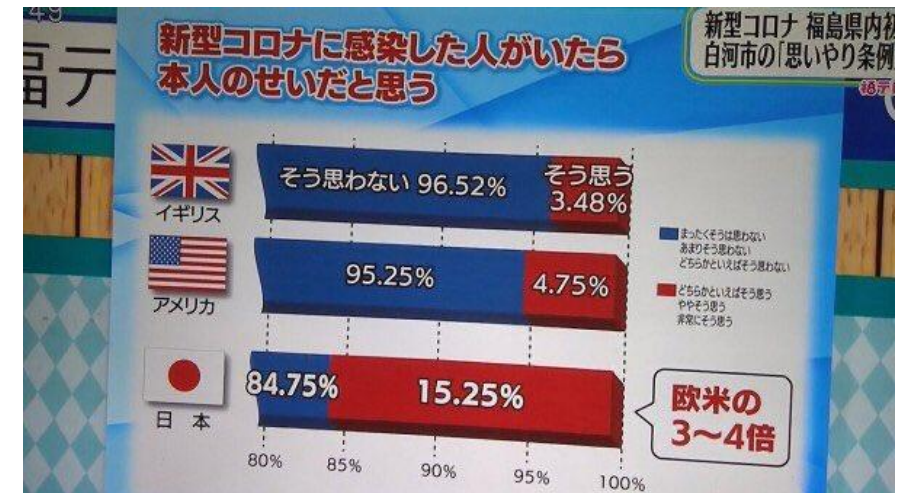
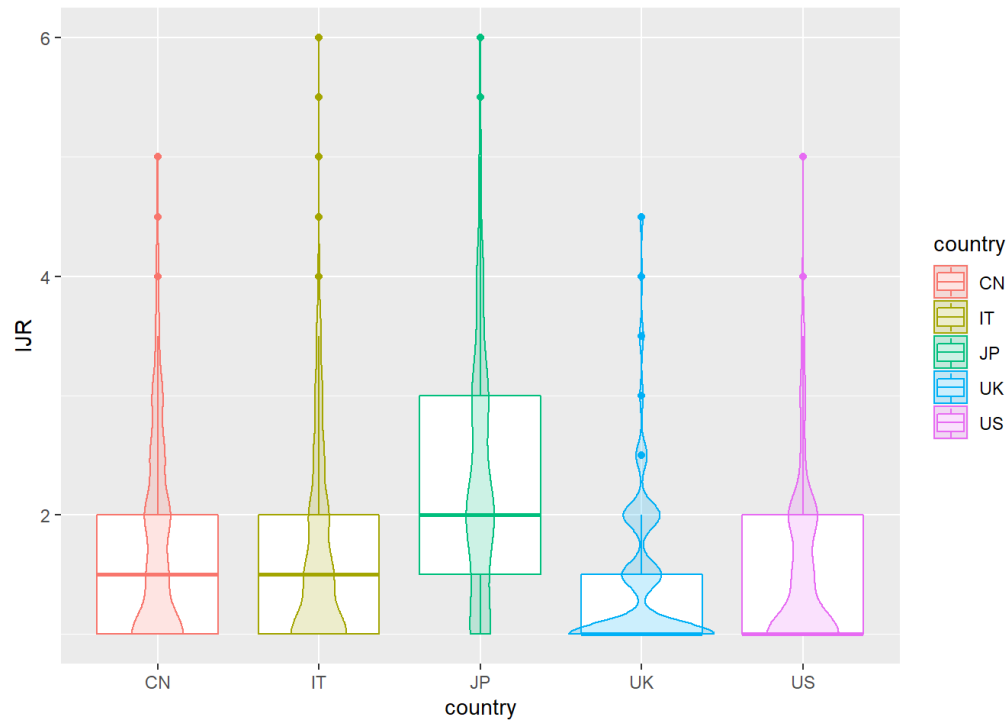
パネル調査

2011年9月に一般市民1800名でスタートした10波にわたる調査
(Kusumi, Miura, Ogura, & Nishikawa, under review)

CT: 批判的思考態度, ANX: 放射線災害不安, INF: 積極的情報収集, AVO: 被災地産食品回避に関するクロスラグドモデル



国際比較調査



新型コロナウイルスに感染した人がいたとしたら、それは本人のせいだと思う
新型コロナウイルスに感染する人は、自業自得だと思う

調査回答データに関する留意点

- Satisfice(努力の最小限化)
 - いわゆる「手抜き」
 - 認知資源に限りがあることが、要求に対する努力を最小化しようとする傾向につながり、目的を達成するために必要最小限を満たす手順を決定し、追求する認知的ヒューリスティック
 - 協力者の回答行動に無謬性を仮定せず、発生しやすいことを前提に積極的に検出・抑止策を講じるべき
- データの補正
 - Web調査のサンプリングは非確率的で便宜的なものなので、代表性が低い(母集団とのずれを強く懸念する必要がある)
 - Web 調査の目的として「社会全体の似姿」を取り出すことに重きを置くのであれば、データ取得後にも何らかの対処を施すことを検討すべき
 - 第2章では、Rakingと傾向スコアによる補正をごく簡単に紹介している

Satisficeの積極的検出

あなたの日常的な行動についておたずねします。

意思決定に関する近年の研究で、人間の決定は「真空」状態でおこなわれるわけではないことがわかってきました。人が何かを決めるとき、その人の好みや知識、または、そのときどんな状況におかれているかなどのさまざまな特徴が、大きな影響を及ぼすのです。この調査では、こうした「人間の決め方」を研究するために、あなたの「意思決定者」としてのある特徴を知りたいと考えています。つまり、あなたがこの指示を時間をかけてよく読んでいるかどうかを知りたいのです。もし誰もこの問題文をお読みにになっていなければ、問題文の内容を変えることが「人間の決め方」に与える影響を見たい、というわれわれの試みは意味を持たないからです。ここからお願いします。この指示をお読みにになったことの証明として、実際のあなたがどうであろうが、以下の質問には「はい」と回答して、次のページに進んで下さい。よろしくお願いします。

私は電子メールを使ったことがない

はい

いいえ

わからない

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	よくあてはまる
じっくり考えるという作業は楽しくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
思考力が要求されることより、あまり色々考えなくてすむことをやりたい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
長期的な計画よりも、小さな日常的な計画について考える方が好きだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この項目では「まったくあてはまらない」を選んで下さい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教示文を読まない:IMC

質問項目を読まない:DQS

具体的な実証研究は三浦・小林(第3章執筆者・明日登壇)の一連の研究をご参照ください

Satisficeをどう考えるか

- 「警察」のように取り締まるのではなく、「自分が協力者だったらどうするだろう」という立場で考え、協力者に寄り添った理解を
- 常にsatisficeする「確信犯」な協力者はごくまれであることが示されているので、「手抜き」が発生する原因はむしろ研究者側にある
- 積極的な検出・警告による抑止の努力とともに、協力者がsatisficeしたくなるような状況をなるべく回避する努力が望まれる

「調査素人」各位へのメッセージ

- 調査という研究手法の対象者は生き物です。この生き物は、データを提供する主体ではありませんが、データそのものではありません。
- この生き物は、実験施設で飼育されているわけではなく、研究者が生殺与奪を握っているわけではもちろんなく、また、実験室に来訪しているなど一時的に研究者の統制下にあるわけでもありません。
- つまり、研究者の思い通りには決してならない対象なので、良質な(決して「都合の良い」ではない)データを得たいなら、なるべくその生き物の気持ちになって調査を設計・実施することが必要です。良質なデータが得られなかったとしたら、それはひたすら研究者の責任であって、対象者のせいではありません。
- 素人が手を出すとやけどするか、やけどに気づかずにやらかされる「クソ調査」が溢れると調査業界全体を毀損することにつながりかねないので、くれぐれもご注意ください。

Thank you for your attention.